

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	2073300176		
法人名	有限会社めぐり		
事業所名	ゆうあいの家桜		
所在地	長野県下高井郡山ノ内町戸狩日影376番地3 (電話) 0269-31-3533		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年8月24日

【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成19年7月31日現在)

利用者人数	8名	男性 1名	女性 7名
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	4	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 81歳	最低 59歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北信総合病院	北志賀高原診療所	うえだ歯科医院
---------	--------	----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは畑や小山、木々に囲まれており夏でも自然の風で涼が充分に取れている。『富士山が見たい』と言う入居者の話から、職員は家族会に相談し、バス会社、宿泊先のホテルなどと交渉もした。入居者とその家族(子供や孫など家族で複数の参加があった)、職員と大所帯で1泊旅行に出掛けている。とてもいい思い出ができたという入居者家族からとても喜ばれたという。今回新たに10人乗り大型車を購入し入居者の要望に応え、積極的に外へ出掛けるようにしている。地域密着型サービス提供の意味を全職員が理解し、住み慣れた地域の中で入居者がその人らしく生活できるように開設当初より取り組んでいる。また、重度化した場合や終末期については家族からの意向もあり『ここは自宅でもあるのだから』と職員間で話し合い前向きに取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画がより入居者本位のものになるようにと担当者は受け持ちの入居者と話したり、記録(介護計画など)を書く事で入居者の気持ちが更に深く理解できるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の目的を理解した上で自己評価を全ての職員で行っている。その結果に基づき、安全面や介護計画等に関して改善に向けて皆で話し合っている。そして、理念を職員の心にとめて入居者の立場に立った支援を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催されている。ホームでの看取りの取り組みなど活動の報告や災害時の対応などが話し合われ、地域に開かれたホーム作りに努めている。特に、住宅地から離れたところにあるので、近隣住民をはじめ、広範囲からの協力を得られる体制作りを期待したい。また、短期利用(ショートステイ)を希望する利用者の相談をうけるなど行政とも連携を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回の家族交流会、面会時やホーム便り、個別に手紙を書くなど、家族への報告体制が確立されている。なおかつ、家族から意見を頂くための工夫もされ、実際に家族から意見をもらい、介護計画や業務の中に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会のお茶のみサロンに出掛けて地区の高齢者とお付き合いをしたり、敬老会にも呼ばれるなどホームの入居者は地区の住民として迎えられている。ホームがお花見や温泉等に出掛ける時には地区の老人会に声をかけて一緒に出掛けるなど、お互いに誘い合う関係作りが構築されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書に「地域との交流のある家庭作り」、「居心地の良い家庭作り」が記されている。地域の中で、入居者一人ひとりが安心してその人らしく暮らし続けられるための「生活信条」をホームの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議や日々の中で、理念に触れ語りかけている。介護計画をたてる時、日々の言葉かけや接遇時等に理念を意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月一回地域開催の老人会(お茶のみサロン)に参加している。また、敬老会にも呼ばれている。ホームがお花見や温泉等に出掛ける時には声をかけて一緒に出掛けるなど地域との交流を深めている。区費の支払いもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的を理解した上で、自己評価を全職員で行った。文章に表すことによって違った意見が出てくる。その結果、安全面や介護計画等に関して皆で話し合い、改善に向けている。		

ゆうあいの家 桜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は2ヶ月に1回、定期的に行われている。ホーム側から「ホームでの看取りの取り組み」が報告されたり、災害時の対応についても話し合われるなど、地域に開かれたホーム作りに努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町から短期利用(ショートステイ)を希望する利用者の相談を受けている。4月以降2名の方が利用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回は家族交流会があり、来所された家族には、ホームでの様子を伝えたり介護計画等説明している。また毎月ホーム便りで暮らしぶりを報告している他に、健康のこと、日頃の様子等を個別にお手紙を書き知らせている。預り金はないので、出納帳はなく、必要に応じて立替払いしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りには、ご意見を頂きたいと用紙を同封している。月に1回の家族交流会や面会時に家族から個人的に「母親はこうなので、ここをみて欲しい」等と、意見をもらう事もある。介護計画や業務の中で、要望に応える努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は、入居者の気持ちを考慮して「勉強会に行ってきます」等と挨拶をしている。殆んど職員が開設当初からの顔馴染みである。家族には、お便りで異動を知らせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては、管理者から紹介があり、希望すれば参加できている。研修内容は、月一回の全体会議で報告されるので共有できている。勤務年数に応じた研修もあり、職員を育てる取り組みは出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣市町村の同業者と交流があり、連携を取り合っている。お互いのホームを訪問して情報を得たり、「運営推進会議のあり方」や入居者が退居した後の期間の活用方法など勉強会もしている。同業者との交流は職員のみでなく、入居者も同行し交流することもある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が納得した上で利用できるようにと在宅の人には数日間通ってもらったり、職員が自宅を訪問するなど関係づくりをしている。ホーム入居の場合は、面会に出掛けて入居希望者と顔見知りとなり、家族からも信頼されるなど関係づくりをしてから利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から料理や掃除の仕方などを教えてもらっている。入居者の仕事は丁寧であり、お手本になるという。職員は朝、昼、夕と同じ食事を一緒に食べている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり家族から生活歴、趣味、人生の歩み、暮らし方の希望などを聞き個別に把握されている。入居後は、散歩に出掛けた時やお茶の時間の会話の中から本人の意向や気持ちを聞き取るように努めている。現在は特別会話が難しい入居者はいないが、今後そのような入居者が現れたとしても徐々にであれば今までの状況や暮らし方を参考に、勘案したり、家族やケアマネジャー等とも相談して方向づけたいと考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者毎に、担当職員がいる。担当者は、受け持ちの入居者と話したり、記録（介護計画など）を書く事で入居者の気持ちが更に深く理解できるようになった。介護計画は2週間に1回開かれる職員会議の場で発表し、その内容が理念に基づいているものか振り返りながら話し合いがおこなわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、月に2回ある職員会議で定期的に見直されている。体調を崩したり、状態に変化があった時などは、随時担当者が修正し現状にあったものになっているようにしている。	○	介護計画を検討した記録や家族が確認した時の日付や署名を残すようにしたら良いのではないだろうか。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイサービスの利用者とも積極的に交流している。依頼があれば、ショートステイも受けることがある。家族が付き添えない時には、本人が気に入っている行きつけの美容院や病院への付き添いも行っている。		

ゆうあいの家 桜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に引き続き診察を受けている。通院は職員が付き添い日頃の様子を医師に伝えている。家族には、健康状態や受診の結果などを毎月のお便りと一緒に個別に手紙を書いて知らせている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を確認しながら、看取りを行っている。看取りへの取り組みのマニュアルが作成されている。主治医と家族、看護師を交えて話し合いも行なわれている。家族の気持ち、本人の思いを考慮しつつ全職員で支援が行われている。現在までに2名の利用者を家族と共に看取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解や情報の漏えいの防止等について職員教育が行われている。職員から入居者へゆったりとした口調で親しみのある声かけが行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日大まかなスケジュールはあるが、天気が良いからと外出の希望があればお弁当を持って出掛けたり、欲しいものがあるからと言われれば買い物に出掛けるなど、その日の天候や気分で予定を変更するなど柔軟に支援している。		

ゆうあいの家 桜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	魚、肉料理と大まかに決めてはあるが、「魚だったら○○がいいな」などと入居者の希望で献立が決まる。また、自分たちで育てた野菜を使って一緒に料理をしている。皆で料理をするため広々とした食堂のテーブルを使っている。楽しく調理が出来て、楽しい食事となるように職員は雰囲気づくりに心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、それ以外でも希望があれば、夜間入浴、朝風呂、シャワー等個別の入浴支援を行っている。近くに温泉があり、時々利用している。お金を心配する入居者もいるので『今日は温泉施設の好意だから皆さんでいきましょう』と声かけをするなど安心して入浴を楽しんでもらえるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が出来るように設定したり、説明することで、出来ないと思っていた事も出来ることがあるので、一人ひとりの持つ力を発揮してもらえるような場面づくりや声掛けに工夫している。訪問時、入居者がお茶を運んできて目の前でコーヒーを入れていただいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近辺や公園への散歩、買い物など入居者の希望に添って出かけている。天気の良い日はお弁当を作って出掛けることもある。散歩コースを決めて毎日散歩している入居者もいるが、心配な日は、そっと後ろからついていく事もある。歩行困難の入居者は車椅子で出掛けることもある。ホームでは、10名乗りの車を購入し、遠出もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さについて認識している。日中は鍵をかけずに自由に入出入りが出来るよう開放している。外出傾向のある入居者の癖や行動パターンを把握し所在確認を徹底している。		

ゆうあいの家 桜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は職員が一人になる勤務帯の夜間想定で行い、入居者も参加した。夜間帯での入居者誘導に課題を見出し、前向きに検討している。	○	ホームが近隣住宅地から離れているので地域の協力体制について運営推進委員会や地域消防団などと話し合い協力が得られるよう働きかけていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を役場の栄養士に時々見てもらいアドバイスを受けている。食事や水分の摂取状況は毎日チェック表に記録され個別に把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間、ホールはワンフロアになっている。椅子やテーブル、畳のコーナーがある。入居者は思い思いの場所で過ごしている。窓の外に広がる夏の山々や花壇の花を眺めることができる。また、壁には季節の花の写真や生花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、夏ののれんがかかり、小学生が書いたという似顔絵がはってある。入居者一人ひとり、馴染みのもの（仏壇、写真、椅子、テーブル、タンス、茶箱など）が持ち込まれ、その人らしい居室作りがされていた。		

※  は、重点項目。